

仙台大学 広報室



Monthly Report

硬式野球部、春連覇達成—全員野球で掴んだ栄光



春連覇の瞬間—東北福祉大学野球場

5月18日（月）、東北福祉大学野球場で行なわれた仙台六大学野球春季リーグ第六節は、仙台大学の1勝で迎えた「仙台大学—東北学院大学」の2回戦。本学が東北学院大学を9—4で下し、春連覇（2季ぶり4度目の優勝）を達成しました。本学は80年秋以来、69季ぶり2度目となるすべての大学から勝ち点を挙げ、完全優勝を果たしました。通算成績は、10勝2敗。本学硬式野球部は、6月8日（月）から14日（月）までの7日間行なわれる「全日本大学野球選手権大会」に2年連続2度目の出場を決めました。

今季リーグでは、エース熊原健人投手（U21野球日本代表／体育学科4年—宮城・柴田高校出身）が東北福祉大学に2試合連続完封勝利するなど、4勝0敗の活躍を見せました。また、影浦雅人投手（体育学科4年—北海道・旭川実業高校出身）が東北学院大学に2勝をマークし、優勝投手に輝きました。攻撃陣は、3番・松本桃太郎三塁手（体育学科3年—北海道・北海高校出身）、4番・大坂智哉一塁手（体育学科3年—青森山田高校出身）が勝負所での一打で流れを引き寄せる打撃を見せました。走攻守にまとまりがあり、投打の軸がしっかりしており、応援スタンドも一体感ある応援で選手を後押ししました。

< 目 次 >

硬式野球部、春連覇達成— 全員野球で掴んだ栄光	1
柔道における仙台大学と船岡中学校との連携事業がスタート	2
仙台大学LC（ラーニングcommons）棟起工式を開催	4
近隣の方より本学漕艇部の学生たちへお褒めの言葉を頂戴しました	4
“東京オリンピック・パラリンピック”…都心から見える三つの光景	5
学生の競技結果等	8

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供していきたいと考えております。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、広報室までご一報ください。

広報室

TEL 0224-55-1802

FAX 0224-57-2769

Email: kouhou@sendai-u.ac.jp

スポーツを英語で語るキャンパス創り

"A campus for Sports Education through English"
—LET'S TALK SPORTS IN ENGLISH!—

2017年創立50周年
50 years Anniversary of Establishment in 2017

 SENDAI UNIVERSITY Since 1967

SPORTS FOR ALL ~スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に~

まさに全員野球で掴んだ栄光。本学硬式野球部は、「第64回全日本大学野球選手権大会」の初戦で、九州産業大学（福岡六大学野球連盟）と対戦<6月8日（月）・東京ドーム・第1試合9時～>します。

引き続き、仙台大学硬式野球部への熱い応援をよろしくお願ひ致します。

<阿部芳吉学長のコメント>

走攻守揃ったチームで優勝できました。夢を追い続ければ目標になる。目標は努力すれば達成できる。次の夢は全国制覇。目標は初戦突破。



応援席に向かって喜びを爆発させる仙台大ナイン



2季ぶり4度目の優勝を喜ぶ仙台大ナイン
 Ⅱ東北福祉大学野球場【閉会式…5月24日（日）】

柔道における仙台大学と船岡中学校との連携事業がスタート



開校式で挨拶を行なう阿部学長＝船岡中学校武道場

5月7日（木）、船岡中学校武道場で「柔道における仙台大学と船岡中学校との連携事業」の開講式が開催されました。開校式には、本学からは阿部芳吉学長・男子柔道部の南條充寿監督（全日本女子柔道監督）・女子柔道部の南條和恵監督・井上雅勝教授・郡山孝幸教授・高橋亮准教授が、船岡中学校からは青田穰校長・柔道部の船迫美和子監督らが出席されました。

柔道における本学と船岡中学校との連携により、中学生には、競技力向上を目指すと共に日本で生まれた「柔道」という文化の特性（人間力の向上）を十分理解させ、その普及に努めること。また、大学生には、コーチング現場の実際を通じて、コーチングのスキル向上を目指します。

開講式で阿部学長は「全日本女子柔道監督である南條先生の指導を受け、競技力を高めながら精神面も鍛えてほしい」と挨拶。青田校長は「恵まれた環境で稽古ができるという感謝の気持ちを忘れず、精一杯努力して頑張してほしい」と述べました。

開校式終了後、船岡中学校柔道部の船迫監督は「全日本女子柔道監督の南條先生に指導して頂けるのは光栄なことであり、大変嬉しく思います。仙台大学との連携事業を通して、魅力と活気ある部活動を発信していきたいと思います」と話されました。

なお、船岡中学校柔道部員18名（男子17名・女子1名）に対して、今後、週2日、船岡中学校での稽古時に本学柔道部員が出向き、その稽古に参加してコーチングを行ないます。さらに週2日は、船岡中学校柔道部員が本学柔道場で女子柔道部員との稽古に参加することになります。

仙台89ERS 2014-2015シーズン スポンサー感謝の集い

OB佐藤文哉選手（右）と櫻井理事 勝山館



5月11日、勝山館にて開催された「仙台89ERS 2014-2015シーズン スポンサー感謝の集い」に櫻井理事と法人事務局の品田さんと共に出席させていただきました。当日は、株式会社ボディプラスインターナショナル・株式会社河北新報社・株式会社カメイ・七十七銀行などをはじめとした50社以上のオフィシャルスポンサー企業の方々約60名が地元のプロチームのシーズン終了を労うため集まりました。仙台大学明仙バスケットラボは、仙台89ERSがアウェー戦に出発する当日のシューティング会場となっていて、レギュラーシーズン中は戦地へ行くチームを見送っていました。

感謝の集いは球団代表中村彰久さんのあいさつで始まり、今年度の反省（東地区1位になれなかったこと、平均観客数が目標に届かなかったこと）、新リーグ（2016-2017シーズンよりJPBL）への参加表明の報告とその課題、スポンサー企業に御礼の言葉がありました。

懇談の時間には、OB佐藤文哉選手（平成25年体育学科卒一宮城・明成高校出身）が櫻井理事にシーズン終了の報告とお礼の言葉を伝え、「最後は負けて悔しい」と言う「来年はもっと頑張れ」と櫻井理事が激励なさいました。また、中村社長が櫻井理事にご挨拶にいらした際、櫻井理事は「できるサポートは全部しますよ」と心強いお言葉を差し上げ、また、櫻井理事は株式会社ボディプラスインターナショナル、株式会社タイヤワールド館ベスト、株式会社トスネットなど数社とも交流を持たれていました。

今シーズンの89ERSは東地区3位という素晴らしい成績と過去最高勝率を記録しました。また、プレーオフをホーム開催するという目標も達成しました。明仙バスケットラボとしても決勝戦の地である有明コロシアムへ向かうチームの見送りを夢見ていましたし、誰もがまだポストシーズンが続くと信じていましたが、悔しい敗戦でシーズン終了が早まってしまう。負けをすぐには受け止められないほどの悔しさでコートから出ることができなかった選手、涙が止まらず試合後のインタビューができなかった選手など心打たれる場面を思い出しながら、この会を通して選手やチームスタッフと交流し、チームの悔しい思いや無念さを直接感じることができました。仙台89ERSを離れて2シーズン、今なおチームとこのような交流を持たせていただける環境と、このような会に出席させて頂く機会をくださいました朴澤理事長をはじめ、関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

＜報告：アスレティックトレーニンググループ
川平分室 GM 白坂 広子＞

桜丘中学・高等学校防災講演会

子ども達の笑顔に励まされたモザイクアート



平成27年4月30日（木）、『生かされて生きる』～東日本大震災と特活教育の力～という演題で実施した。昨年5月には、修学旅行隊の2年生を対象に、石巻専修大学の森口記念講堂で実施した。

今回は、前年度の流れを受けて、東京北区にある私立中学・高等学校に招聘されて修学旅行の事前研修として行ったものである。防災教育を切り口にした「学び合い」のあり方についてもふれ、学習環境が低下した被災地の子ども達の学力向上には、「教え合い・励まし合い・学び合い」がどれだけ大切だったかについても話した。石巻西高校の場合は、国公立大学進学者が昨年度1名にまで減少したが、今年度は7名まで増やすことができたのも、「学び合い」と最後まであきらめ合い指導が実を結んだ結果であると報告しながら、目的と手段が逆転しない進路指導のあり方についての提言を行った。

＜報告：教授 斎藤幸男＞

仙台大学LC(ラーニングcommons)棟起工式を開催



LC棟完成イメージ=鹿島建設(株)提供

5月19日(火)、小雨の降る中、本学附属図書館東側のテニスコート跡地で、仙台大学LC(ラーニングcommons)棟の起工式が執り行なわれました。

同式には、本学からは朴澤泰治理事長・阿部芳吉学長ら17名が、来賓として柴田町の水戸敏見副町長・柴田町教育委員会の船迫邦則教育長、大河原町教育委員会の齋一志教育長、施工者である鹿島建設株式会社東北支店の太田貴博副支店長らが参列され、完成に向けての安全祈願を行いました。

安全祈願終了後、朴澤理事長がLC棟建設の趣旨を話され、学生同士が知的に成長するための「共有空間」を整備し、将来に向けた人材育成に役立てる建物であることを説明されました。

仙台大学LC(ラーニングcommons)棟は、平成28年1月31日完成を目指して整備を進めていきます。

LC棟は、概要として以下のようになります。
用途：教育施設。構造階数：鉄骨造地上2階建。
建築面積927.01㎡。延床面積：1,688.40㎡。最高高：9.30 m。軒高さ：8.78 m。工期：平成27年6月1日 着工予定、平成28年1月31日 完成予定。

<報告：管理課長 遠藤近志>



近隣の方より本学漕艇部の学生たちへお褒めの言葉を頂戴しました

ありがとうございます

～ 近隣の方より本学漕艇部の学生たちへお褒めの言葉を頂戴しました ～

仙台大学 学長 阿部 芳吉

過日、亘理町在住の方から、心温まるお礼状と本学漕艇部の学生たちへのお褒めの言葉及びご芳志を頂戴しました。

お手紙によりますと、その方はご夫婦でカヤックが趣味だそうで、毎年、桜満開時には白石川の川下りを実施しているそうです。ある早朝、エアータブルカヤックを車に積み、本学漕艇部付近まで来たところ、前日の雨のせいか地面がぬかるみ車が動かず、立ち往生してしまったとのことでした。困り果てたその方が助けを頼みに行こうと下った河原で漕艇部の7名に逢い、事情を話したところ、すぐに全員揃って車を押してくれ、無事脱出できたそうです。感激して学生達にお礼を言うと「カヌーが好きな同好の士ですから」と、自分にとって子供や孫の年代の若者から同好の士と言われたことが大変嬉しかったそうです。

これも仙台大学の学長をはじめ関係者のご指導の賜物でしょうと結ばれたお手紙とご芳志は、漕艇部員に手渡し致しました。

亘理町在住のカヤッカーさま、このたびは誠にありがとうございました。

仙台大学は今後とも地域に根差した健全な学生の育成に尽力して参りますのでどうぞよろしくご支援のほどお願い申し上げます。



阿部学長(前列左端)と本学漕艇部の阿部監督(後列右端)及び漕艇部員ら=学長室

“東京オリンピック・パラリンピック”…都心から見える三つの光景

「未来（あした）をつかもう」の合言葉で開催される2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けての準備にも、いよいよ本格的なエンジンがかかり始めてきている。

この大会は、ロンドン大会同様に東京という成熟都市で開催することから、既に整備されているインフラや安定した社会から生まれるあらゆる恩恵を示すこと、具体的には、晴海ふ頭の選手村を中心とした半径8km圏内に85%の競技会場を設けたコンパクトな会場配置で質の高い綿密な計画と安全な大会の開催を実現することを大きな特徴としている。

また、被災地支援も柱の一つだ。被災地住民が参加しての三陸沿岸の聖火リレー、宮城スタジアムのサッカー予選会場としての使用、被災地の中高校の式典イベントへの参加などが織り込まれようとしている。

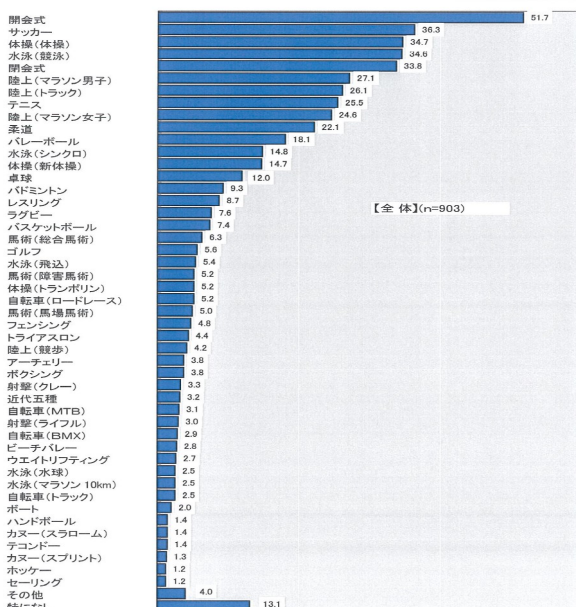
今後、開催時期が近づくにつれ国民の関心も高まり開催気分が盛り上がりが見られること・・・必定である。

そんな中、警視庁が今年1月に“東京オリンピック・パラリンピックにおける警備”に焦点を当て、興味深いアンケート調査を実施した。体育・スポーツ健康科学を教育・研究する本学としても、東京都民がこの大会の開催をどう見ているかは、大いに参考にすべき点があると思うので、簡単に紹介しよう。

東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催については79.3%の人が待ち望むと回答し、この大会に期待することとしては、6割前後が、自宅での観戦、日本人選手の活躍、競技会場での観戦、経済活動の活性化をあげ、5割の人が日本文化の外国への情報発信をあげている。日本のスポーツ能力の底上げについては、36%の人が期待するに留まっている。

更に、競技会場で観戦したい種目を挙げてもらったところ、開会式が断然トップで、これについて、サッカー、体操、水泳、閉会式が3割台と上位を占めている。いずれにせよ、その他の種目を含めたアンケート結果は別図のとおりであり、体育・スポーツ関係者として興味深い結果が示されている。

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会における警備について
Q4 競技会場で観戦したいと思う種目は何ですか。（複数選択可）



先日、総理官邸にドローンが不時着した事件があった。この事件は、東京の都心もその治安の維持には、新しい手段での脅威を含め、警戒が求められる段階に入ったことを示すものだ。アンケートで、競技大会の開催で不安を感じることにについて質問したところ、第一位に、テロの発生と答えた人が、実に78.8%の人に上った。ついで、来日外国人によるトラブル(66.4%)、交通渋滞・公共機関の混雑(65.1%)、犯罪の増加(51.7%)、サイバー攻撃(35.5%)となっている。オリンピックの開催に大きく期待する一方で、予期せぬ不測の事態へも不安を抱いている現実がそこには投影されている。

これに関連し、頼もしい結果が得られている。それは、大会期間中の警備の措置としての車両検問、交通規制、職務質問等に対して95.3%の人が行うこと止む無しとしていることである。そして、「日本で絶対にテロ等を起こしてはならない」と85.7%の人が答え、67.3%の人が「『世界一安全な都市、東京』の実現のためには行うべきである」としていることである。

今回の大会期間中の警備は大きな課題だ。今回のアンケート結果を見れば、国民は、オリンピック・パラリンピック競技と並び、大会期間中の安全の確保自体を日本が示しうるかというもう一つのオリンピックを見ようとしているともいえる。現に、警備当局とオリンピック組織委員会が連携し、警備専門の対応措置を準備する体制が整備された。総数約5万人の警備体制、うち警察官2万1千名、警備員1万4千名、残りはボランティアで手当てするという構想も出されている。それに併せ期待されているのは警備のためのハイテク機器の活用だ。警視庁はオリンピックの警備をも視野に入れ、小型無人ヘリコプター・ドローン100台の配備を決め、対応を準備しつつある。警備業界も、本当に人手が確保するかという基本命題に加え、ドローンの活用や会場に入る人々を把握するための顔認証システムの活用、ベテラン警備員の動員による観客の荷物等のX線検査体制整備など機械を活用した対応の導入を検討し始めている。言い換えれば、もう一つのオリンピックが静かに始まっている。

いずれにせよ、体育・スポーツ健康科学にとっての祭典、オリンピック・パラリンピックは、(1) 現役・OB/OGを含め、本学からアスリートとしての参加が実現し得るのかということへの関心に加え、

(2) 東日本大震災の復興を進める被災地の方々の参画をいかに自然体とともに歩みつつ進めていくか、(3) それにもう一つのオリンピックとも言うべき世界で一番安全なオリンピック・パラリンピックの開催が実現し得るのか?…これらの三つの光景に複眼思考で対処し考えていくこと…これが、教育研究機関として本学の学生・教職員に求められているのかもしれない。

<寄稿：教授兼東京事務所長 遠藤保雄>

青梅慶友病院・大塚太郎理事長らが来校



5月14日（木）、青梅慶友病院（東京都青梅市）の大塚太郎理事長【写真前列中央】とOB福田卓民部長（昭和63年体育学科卒）【写真前列左端】が、朴澤泰治理事長・阿部芳吉学長にご挨拶に来られました。

青梅慶友病院は、本学の卒業生を多く採用して頂き、現在も多くのOB・OGが在職している病院です。

ユニバ女子サッカー日本代表選出の学生、コーチに激励金を授与



左から黒澤監督・須永選手・加賀選手・鈴木会長＝仙台大学

5月11日（月）、今年7月に韓国・光州で開催される「第28回ユニバーシアード競技大会」に出場するユニバーシアード日本女子サッカー代表メンバー20人が発表され、本学女子サッカー部からは

かがこうこ

加賀孝子選手（スポーツ情報マスメディア学科4年－ジェフユナイテッド市原・千葉レディース出身－宮城・聖和学園

すながまなみ

高校出身）と須永愛海選手（体育学科3年－JFAアカデミー福島出身）の2名が選出されました。ユニバ日本代表の2名同時選出は、東北地区大学サッカー界（男子含む）初の快挙。本学女子サッカー部の黒澤尚監督（平成12年体育学科卒）も、コーチとしてユニバ代表チームに帯同することが決定しました。

15日（金）、仙台大学同窓会の鈴木省三会長（仙台大学副学長／昭和60年体育学科卒）より、加賀選手・須永選手・黒澤監督の3名に激励金が手渡され、「代表チームの一人として活躍され、仙台大学の名を高めてきてほしい」と力強いエールが送られました。

<報 告：仙台大学同窓会広報部 渡辺誠司>

吉田京看護師、着任挨拶（5月1日付）



5月から健康管理センターで勤務させていただくことになった吉田京です。

先月まで総合病院で病棟勤務をしていました。

病院とは全く違う環境となり少し不安な気持ちもありましたが、スポーツに励む声が響き渡る、校内のはつらつとした雰囲気、学生の皆さんの若さあふれる活発な姿をみて、毎日元氣をもらっています。

慣れない業務に右往左往し迷惑ばかりかけてしまいますが、一日でも早く仕事を覚えて、学生さんや教職員の皆さんの、健康管理をサポートできるよう努力していこうと思っています。また、スポーツ全般の知識も浅いので、皆さんとのかかわりの中で知識をつけていきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひします。

一般社団法人全国体育スポーツ系大学協議会第1回理事会・総会などが開催される



全国体育スポーツ系大学協議会は、体育学及び関係分野を専門とする大学、短期大学及び学部・学科・コース等の教育、研究、経営等に関する調査研究を行い、我が国の体育・スポーツ等の充実発展に寄与することを目的として、昭和56年9月に設立されました。

現在は32の大学・短大が加盟しておりますが、本学は、設立当初からの加盟校です。（会長および事務局：日本体育大学）

これまでは、任意団体として、体育・スポーツ等に関する研究、調査、情報収集等の事業を行ってきましたが、これらの活動をさらに充実発展させるとともに、他の機関や諸団体との連携を強化し組織の拡大を図るため、一般社団法人に移行することになりました。

5月28日に名古屋東急ホテルにおいて、一般社団法人全国体育スポーツ系大学協議会の第1回理事会と第1回総会が開催され、松浪健四郎会長の挨拶の後、一般社団法人の登記が4月30日付で完了したことが報告されたほか、今年度の事業計画と予算、今後の協議会の拡大策などが承認されて、一般社団法人として新たにスタートしました。

なお、翌日の5月29日には同会場において「全国体育系大学学長・学部長会」総会が開催され、加盟する全27大学のうち26大学から会員をはじめ、事務関係者など含む56名もの参加がありました。（会長および事務局：順天堂大学）

9月13日（日）13：00～ 順天堂大学本郷・お茶の水キャンパス有山登記念館・講堂において、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会と連携し、「全国体育系大学学長・学部長会主催シンポジウム（案）」が開催される予定で、同会が同オリンピック・パラリンピックを一つの契機として、日本の体育・スポーツの発展にどのような寄与・貢献ができるか？ について、話し合われる予定です。オリンピック・パラリンピックという国家的行事の開催国として、体育系大学が果たす役割がますます重要となって参ります。

<報 告：法人事務局 常務理事 藤田 努>

硬式野球部、春連覇へ一步前進／熊原健人投手(体育学科4年)が熱投



エース熊原投手が東北福祉大学打線を2試合連続完封＝東北福祉大学野球場

5月11日(月)、仙台六大学野球春季リーグ第五節は、1勝1敗で迎えた「仙台大学ー東北福祉大学」の3回戦が行なわれ、本学が東北福祉大学を1ー0で下して勝ち点を「4」に伸ばし、春連覇へ一步前進しました。

試合は、本学が6回裏一死一三塁、5番DH薄井新主将(体育学科4年ー栃木・矢板中央高校出身)の内野ゴロの間に白川拓海選手(体育学科2年ー茨城・霞ヶ浦高校出身)が生還して先制。これが決勝点となりました。投げては、エース熊原健人投手(U21野球日本代表／体育学科4年ー宮城・柴田高校出身)が東北福祉大学打線を4安打8奪三振で完封。149キロを計測(MAX152キロ)。熊原投手は、東北福祉大学相手に2試合連続完封勝利と今季リーグ4試合連続36イニング無失点(防御率0.00)の熱投を見せました。

<平成27年度仙台六大学野球春季リーグ表彰選手>

【最優秀選手賞】熊原 健人投手(同)

【ベストナイン】

投手 影浦 雅人投手

(体育学科4年ー北海道・旭川実業高校出身) 初

三塁手 松本 桃太郎選手

(体育学科3年ー北海道・北海高校出身) 3回目

外野手 鳥井 凌選手

(体育学科1年ー香川・尽誠学園高校出身) 初

東北学生柔道優勝大会・悲願の「男女アベック優勝」 —男子は初V・女子は9連覇



男女アベック優勝を喜ぶ仙台大学柔道部員ら＝宮城県武道館

5月24日(日)、宮城県武道館(仙台市太白区)で「東北学生柔道優勝大会」が行なわれました。男子はトーナメント戦で争われ、昨年の覇者・東北学院大学を準決勝で3ー1、決勝では秋田大学を4ー3で下し、見事初優勝に輝きました。女子はリーグ戦で争われ、富士大学を4ー0、東日本国際大学を4ー1で下し、2勝。大会9連覇の快挙を達成しました。本学柔道部は、悲願の男女アベック優勝を果たしました。

大会優秀選手には、男子は長村航太選手(現代武道学科1年ー神奈川・桐蔭学園高校出身)と馬場亮河選手(体育学科3年ー北海道・北海高校出身)が、女子は市川香代子選手(現代武道学科2年ー宮城・東北高校出身)が選ばれました。

大会終了後、女子柔道部の南條和恵監督は「男子の初優勝は、自分たちの力を出し切り、やり切った結果。男子の南條充寿監督(全日本女子柔道監督)が海外遠征中のため不在ながらも、最高の結果を残し、よく戦ってくれた」「女子の9連覇は感無量。大学や教職員、保護者、同窓生、周囲の皆さんのお陰です」と大会を振り返り、感謝の言葉を述べられました。

本学男女柔道部は、6月27日(土)・28日(日)に東京・日本武道館で開催される「全日本学生柔道優勝大会」に出場します。

引き続き、仙台大学男女柔道部への温かいご声援をよろしくお願い致します。



男子決勝・大将戦で馬場選手が一本勝ち。歓喜の渦に包まれた。